

2026 年 7 月 1 日

各位

ENEOS Xplora 株式会社

天然ガス生産過程で発生する廃棄物汚泥を用いた試験研究への参加について
三菱ガス化学ネクスト株式会社と連携しアップサイクルに向けた取り組みを開始

当社は、中条事業所（新潟県胎内市）*1において、天然ガスの生産過程で発生する産業廃棄物である汚泥を三菱ガス化学ネクスト株式会社実施する試験研究の材料の一部として提供することで、産業廃棄物の再資源化に向けた取り組みを開始しましたので、お知らせいたします。

今回の試験研究では、三菱ガス化学ネクスト株式会社の樹脂製品技術を活用し、当社が提供する汚泥廃棄物を、建材や家具などの造形品にアップサイクル*2 するための材料の一部として活用できるかを調査します。当社はこれまで中条事業所において、70 年以上にわたり石油・天然ガス開発・生産を行っており、その生産過程で地下から発生する汚泥は、通常、産業廃棄物として処理しています。こうした汚泥は事業所の操業に伴い継続的に発生しており、適正な処理とあわせて、さらなる削減や有効活用の可能性が課題となっていました。本試験研究では、従来は産廃処理を前提としていた汚泥について、新たな価値を付加した資源として活用できるかを検証することを目的としています。

本取り組みは、産官学の幅広い協業先と連携し、新たな事業のアイデアを創出する拠点である、中条共創のオープンイノベーションラボ「Nakajo Open-innovation Lab（NOiL：ノイル）」の取り組みの一環として実施するものです。

当社は、エネルギーの安定供給に加え、石油・天然ガス生産現場における環境負荷低減に取り組んでいます。本取り組みは、ENEOS グループが推進する廃棄物の適正管理および再資源化の方針に資するものと位置付けており、本試験研究で得られる知見を活かし、今後も循環型社会実現を目指した取り組みを進めていきます。

*1 中条事業所：1956 年の開設以来、1957 年に水溶性天然ガス鉱床を、1961 年に構造的天然ガス鉱床を、さらに、1978 年には原油鉱床を発見してきました。このように近隣において形態の違う 3 つの鉱床が存在する場所は国内でも珍しいため、“教科書”的な事業所として、海外への技術者養成の場としても利用されています。

*2 アップサイクル：本来捨てられるはずの廃棄物に、新たな価値を付加することで、別の商品へとアップグレードして生まれ変わらせる取り組み。

以 上

試験研究概要

- ・ 試験研究実施者：三菱ガス化学ネクスト株式会社
- ・ 使用する材料・提供者：無機汚泥・当社
- ・ 試験目的：不飽和ポリエステル樹脂を主体とする熱硬化性プラスチックの材料の一部としての使用可能性の検証
- ・ 試験研究期間：2026年9月末まで（予定）

汚泥からアップサイクルまでの過程写真(イメージ)



天然ガス生産現場・生産過程で汚泥が発生



採取した汚泥



三菱ガス化学ネクスト株式会社

熱硬化性プラスチック材料の一部としての活用提案

三菱ガス化学ネクスト株式会社ホームページより